

さいたま市長 3 月定例記者会見

平成 23 年 3 月 9 日（水曜日）

午後 1 時 30 分開会

○ 進 行 それでは、記者クラブの皆様、定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。

 それでは、記者クラブ幹事社の日本経済新聞さん、進行よろしく願いいたします。

○日本経済新聞 3 月の幹事社を務めます日経新聞と申します。

 市長から本日の議題の説明をまずお願いいたします。

市長発表

議題 1：「第 1 回カイゼンさいたまマッチ」を開催します。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。

 それでは、議題の説明に移ります。本日の議題は 3 件です。

 はじめに、「第 1 回カイゼンさいたまマッチ」の開催についてご説明をいたします。

 説明に先立ちまして、業務改善の取り組みとして今月の 4 日、岩手県北上市で開催されました「全国都市改善改革実践事例発表会」に本市の代表として、消防局大宮消防署大成出張所チームが参加してまいりましたので、ご報告をさせていただきます。

 この発表会は、自治体間のカイゼン運動の情報交換を行い、さらなるカイゼンの活性化を図るため、その趣旨に賛同する団体により、平成 18 年度から開催されているものであります。

 本市においては初めての参加となりましたが、「救急車に足台を搭載し高齢化に対応」をテーマに発表を行いました。職員の手づくりによる市民サービスの向上策として、常に改善、改革を行っていく消防隊の姿勢に高い評価をいただき、「これからも安全で賞」を受賞してまいりました。全国の先進的な取り組みを知る絶好の機会にもなりましたので、今後は毎年参加をしてみたいと考えております。

 また、2 年後の平成 24 年度につきましては、本市で開催をすることが決定いたしました。本市の取り組みを全国の皆さんにアピールするととも

に、さらに関係自治体との交流を深めてまいりたいと考えております。

それでは、議題の説明をさせていただきます。本市では、職員一人一人が日常的に業務改善に取り組む、「一職員一改善提案制度」を実施しております。

このたび、これらの取り組みについてそのアイデアを共有し、全庁に効果を広めるとともに、市民の皆様にも知っていただき、職員のチャレンジ意欲を向上させることを目的として、業務改善発表会、「第1回カイゼンさいたまマッチ」を今月の23日、水曜日に開催することといたしました。

この発表会では、今年度中に報告のあった5,000件を超える業務改善事例のうち、全国大会に出場した大宮消防署大成出張所を初め、庁内の事前審査を通過した事例を6つの職場チームが市民の皆様にはわかりやすいよう、また楽しんでいただけるよう、劇なども交えながら発表させていただきます。

発表された事例につきましては、キヤノン電子株式会社、酒巻久代表取締役社長を初め、民間企業においてご活躍されている方々や学識経験者、さらには私も含めた審査委員が審査を行い、最優秀事例を決定いたします。

当日は、どなたでも観覧することができますが、会場に来られない方々にも発表会の様子をご覧いただくため、動画配信会社による生放送も試行的に実施される予定でございます。より多くの方へ取り組みを知っていただき、本市のPRを積極的に行ってまいりたいと考えております。

現在市のホームページでは、発表する6事例について市民の皆様などを対象に、投票による審査も15日の火曜日まで行っております。

投票の結果、得票の最も多かったチームを特別表彰いたしますので、多くの皆様からの投票をお待ちしております。

さらに会場では、さいたま市の魅力をより知って楽しんでいただけるよう、EKIZUNA Projectを初めとしたPRコーナーなども用意いたします。もちろんヌゥも登場いたしますので、ぜひ会場に足をお運びいただきますようお願いいたします。

議題1については以上です。

市長発表

議題2：「第2回見沼たんぼクリーン大作戦を実施します」

続きまして、議題2、「第2回見沼たんぼクリーン大作戦を実施します」についてご説明をいたします。

昨年度初めて実施いたしました、見沼たんぼクリーン大作戦を今年度も3月12日、土曜日に実施いたします。

主催は、「見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワーク」、通称「見沼たんぼ市民ネット」になります。こちらの組織は、見沼田圃でさまざまな活動を行っている市民活動団体とさいたま市が協働により、見沼たんぼのホームページの運用や、ホームページを活用した有効な情報発信と各種活動を行うことを目的に設立された組織であります。現在18の市民活動団体が参加しており、今回の清掃活動のほか、各種イベントを企画から実施まで行っております。

今年度は、昨年以上の市民や企業など、たくさんの方々に参加申し込みをいただき、また本部会場となります合併記念見沼公園の指定管理者でもあります財団法人さいたま市公園緑地協会よりご後援をいただき、昨年以上の規模で実施いたします。

企業などの団体参加は昨年度15団体でありましたけれども、今年度は現在22団体の参加申し込みをいただき、見沼田圃への関心の高まりを感じております。

見沼田圃は、首都圏の貴重な平地的大規模緑地空間であり、豊かな自然が残され、農業者の営農努力によって、現在のような緑地空間として保全されてまいりました。

この見沼田圃の環境を守り、現状を多くの方々に知っていただき、さらにはこの環境を保全するため、見沼田圃で活動している市民活動団体や市内外の多くの方々とともに、今後とも引き続き実施し、見沼田圃の環境保全に役立てていきたいと思っております。

今後とも、見沼田圃の保全、活用、創造に向け、ご理解、ご協力をいただくとともに、市民のかけがえのない環境資産として大切に守り育て、後世へと伝え、子どもが輝く“絆”で結ばれたまちの実現に向けて、全庁を挙げて取り組んでまいりたいと思っております。

市長発表

議題 3 : 「平成 23 年度当初予算編成過程を公表します」

続きまして議題 3、「平成 23 年度当初予算編成過程を公表します」についてご説明をいたします。

予算編成過程の公表につきましては、平成 22 年度予算編成過程から公表を開始し、その後平成 22 年度各補正予算を公表してまいりました。本日平成 23 年度予算につきましては、その編成過程をまとめましたので、公表いたします。

平成 22 年度は 117 の主要事業を対象として公表を実施いたしましたが、平成 23 年度は「総合振興計画新実施計画」及び「しあわせ倍増プラン 2009」に掲げる事業、「行財政改革推進枠で予算要求があった事業」の合計 408 事業に対象事業を拡大いたしまして、積極的な見える化を図りました。

公表の内容といたしましては、予算要求がありました事業の内容、財政局長査定及び市長査定の各段階における査定の内容、理由をそれぞれ記載しております。

また、昨年から調書の様式を変更し、各事業の現状と課題、解決への道筋や事業の求める目標、効果など、事業の内容をより詳細にお伝えすることができたと考えております。

今回の公表を通じ、市の予算編成がどのようなプロセスで行われているのか、事業の内容や査定の理由などを含め、市民の皆様幅広くお知らせをすることにより、意思決定過程の透明化がさらに向上するものと考えております。

来年度以降は、このたびの公表に対するご意見や、他の自治体での取り組みなどを参考にしながら、情報公開日本一を目指すさいたま市にふさわしい手法、時期、内容を検討し、より一層拡充してまいりたいと考えております。

本日は、事業の一例として、「E KIZUNA Project」を抜粋してお配りしております。

資料の 6、7 ページになりますが、「E KIZUNA Project」

では、プロジェクトの推進のためのさまざまな事業を所管局は要求してまいりました。調書左側には事業の位置づけ、どのような市民の声があるのか、現状と課題など事業の詳細を示し、右側で要求と査定の内容を示しております。

右側、平成23年度予算要求内訳の2段目でございますとおり、充電セーフティネットの構築につきましては、課金システム実証実験について、財政局長査定では予算化されていなかったものを私が予算化をいたしました。したがって、財政局長査定額2,947万5,000円から市長査定で4,947万5,000円となっております。

このほか、公表するすべての事業につきましては、記者会見終了後、各区情報公開コーナー、市ホームページにおきましてお知らせをいたしますので、ご覧いただきたいと思っております。

私からの説明は以上です。

議題に関連する質問

- 日本経済新聞 ありがとうございます。
ただいまの市長発表の議題について、質問のある方お願いいたします。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。
この「カイゼンさいたまッチ」の関係なんですけれども、ニコニコ生放送に放送されるということなんですけれども、ニコニコ動画は画面に視聴者のコメントが載りますけれども、今回の場合も同様に生放送しながらコメントが載る形になるのでしょうか。
- 市 長 はい、一応そういう形を考えております。
- 埼玉新聞 あと、予算編成過程の公表なんですけれども、今議会で議員報酬と政務調査費を削減して教育費に充てるという予算修正が可決されましたが、その予算修正の関係も公表されることになるのでしょうか。
- 市 長 現状で今回公開するものの中には含まれておりませんが、今後そういったものにつきましても公開する方向になると思うんです。
- 日本経済新聞 予算編成の過程の公開についてなんですけれども、このように当初の局長査定から市長査定のほうが額が増える、規模が大きくなった事例というのはかなりあるということなんですか。

- 市 長 そうですね、ちょっと全体の割合としては、(事務局に)わかる？。
- 事務局 よろしいでしょうか。財政課長でございます。
- 局長査定で政策的な判断等に関わるものについては、市長査定で判断していただいたことと思いますが、増額となったものについては3事業ほど。
- 日本経済新聞 済みません、その3事業というのは、今わかりますか。
- 事務局 まず、保健福祉局の関係で、国保のシステム改修があります。
- それから、ただいま市長がご説明をいたしましたE K I Z U N A。
- それから、教育委員会関係で学校警備員関係の事業がございます。
- 日本経済新聞 あと、同じく予算の公開についてなんですけれども、今回予算に盛り込まれなかった子ども手当の地方負担分についても、同じように検討した段階については公開されているんですか。
- 市 長 子ども手当はありますか。
- 事務局 よろしいでしょうか。子ども手当につきましては、局長マネジメント経費の中のもので、(公表対象の)総振事業とはちょっと違いますので、ここには入っていません。
- テレビ埼玉 テレビ埼玉です。
- 前回の市民評価委員会です、その情報公開の部分で、議決後の公開じゃ意味がないんじゃないかという意見も1つ挙がっていたと思うんですけども、それについて今後を含めて市の考えをお願いします。
- 市 長 そうですね、今後につきましては、その発表する時期ですね、今までは、いわゆる予算議決後ということで、22年、そして今回の23年度予算についてやらせていただきましたけども、来年度以降については、そういった発表する時期、方法なども含めて、他の都市でいろんな事例などもありますので、そういったものも含めて検討していきたいと思っております。
- 情報公開については、今後もより公開ができるように努力をしていきたいということを前提に検討していきたいと思っています。

幹事社質問：「埼玉高速鉄道の岩槻延伸に向けての検討委員会について」

- 日本経済新聞 各社さん大丈夫ですか。

じゃ、幹事社質問に移らせていただきます。先日の議会の中でですね、埼玉高速鉄道の岩槻延伸に向けて、専門家による検討委員会を設置するというお考えを市長から示されたかと思うんですけども、今までかなりさまざまな意味での調査というのは進めてこられたかと思うんですけども、今回検討委員会を設置されて、具体的にどのような内容について検討を進めていくのか、その具体的な内容について教えていただきたいんですけども。

○ 市 長 地下鉄7号線の延伸につきましては、「しあわせ倍増プラン2009」に、「経済性などを十分に考慮し、まちづくりと連動させた上で、平成24年度末までに事業着手することを目指します。」と位置づけておりまして、市の重要施策として鋭意取り組んでいるところでございます。

「第三者の専門家による検討委員会」の具体的な検討内容につきましては、延伸線の建設計画、運行計画や需要予測などの鉄道調査に関するこれまでの調査結果について、埼玉県と共同で取りまとめ作業を行う予定としております。

人口減少局面を迎えようとしている中で、鉄道の厳しい事業環境が予想されることや、国において公共事業の需要予測手法、事業評価手法の見直しの動きがあるなど、今後鉄道事業の申請に当たりましては、従来より高い精度の事業プランが求められると想定しております。

こうしたことから、第三者の専門家の目で客観的に延伸線の建設計画や需要予測などを精査・検討していくことが必要であると考えているところでございます。

さらに、地下鉄7号線の延伸線に設置を予定しております中間駅周辺のまちづくり事業もあわせた総合的な観点で、整備コストや事業効果などを検討していただくこととしております。

今後は、埼玉県と相談しながら検討委員会の準備を進めていく予定でありまして、委員会の設置時期、あるいは委員構成など具体的にになった段階で、また改めてご説明をさせていただきたいと思っております。

以上です。

幹事社質問に対する関連質問

○日本経済新聞　今のに関連してなんですけれども、今回の検討委員会で最終的に延伸すべきなのかどうかというところの最終的な判断材料になる回答をこの検討委員会で引き出すということを想定されての委員会の設置ということになるんですか。最終的な判断するのは.....

○市　長　来年度にやる事業については、目標としております平成24年度末までの事業着手、すなわち「都市鉄道等利便増進法に基づく鉄道事業者による申請手続に入ること」を視野に入れる中では、大変重要な年になるとは認識をしています。

ただ、いずれにしましても、今後も人口減少に伴う事業採算性の確保という厳しい課題をクリアする必要がありますけども、市民の皆さんの地下鉄7号線延伸への期待も非常に高まっていることから、今後も延伸実現に向けて最大限の努力をしていくということで考えております。

○日本経済新聞　繰り返すようなんですけれども、そこでその事業の採算性がとれないと判断した場合は、延伸は断念するという可能性も十分あるわけなんですか、この検討委員会で判断されれば。

○市　長　今も申し上げましたとおり、目標としている平成24年度の事業着手ということから考えると、この検討委員会の結論というのが1つの目安というか、材料にはなっております。

ただ、地下鉄7号線を進める、進めないということでの最終判断ではないですけれども、平成24年度の事業着手という意味では重要な年になると思っております。

○日本経済新聞　わかりました。

今のに関連して質問のある方はお願いいたします。

○埼玉新聞　埼玉新聞です。

今の最終判断というのは、いつごろを想定されているのでしょうか。

○市　長　まだ今後の検討委員会の設置のタイミング時期などもございますので、今.....具体的な目安は？(事務局に)

○事務局　地下鉄7号線延伸対策課長、村上と申します。

検討委員会のほうもですね、県も予算の審議をしている途中というところでございますので、また県と相談しながら具体的な内容、そのスケジュールも考えていきたいと思っております。もうちょっとお待ちいただければとい

うふうに思います。

- 埼玉新聞 ただ、実際問題ですね、都市鉄道利便増進法適用の申請まで残り1年をもう切っている状態ですので、そこで採算性を確保というのを今のところクリアできない状態が続いていますが、そう遠くない時期に最終的な判断をしなくちゃいけない時期が差しかかってくると思うんですが、その点である程度の期限を設ける必要があるかと思うんですけれども。
- 市 長 採算性の問題クリアできていないとおっしゃっていますが、まだ採算性の問題なども今後のどういうまちづくりの計画をつくっていくかということによって、その辺は変化していきますので、そういったことも含めて今まで幾つかいろいろ検討してきたものがございますので、そういった調査の結果についての精査も専門家の皆さんに十分やっていただきながら、最終的に一応平成24年度に事業着手ができるかどうかという検討をさせていただくということになると思うんですけれども。
- 日本経済新聞 ほか関連しての質問は。
それでは、ほかに質問のある方、自由にお願いたします。

その他：「民主党・無所属の会の事業仕分けの予算への反映について」

- 朝日新聞 朝日新聞です。
昨年末にですね、市議会の民主会派、民主党・無所属の会が独自に事業仕分けをしてですね、政策提言されたと思うんですが、その提言内容というのは今回の予算編成にどれぐらい反映されているんでしょうか。
- 市 長 そうですね。基本的には、民主党に限らずですね、各会派から予算関係でいろいろご要望をいただきました。それらについて、これらも近々に公表される(事務局に).....
- 事務局 しました。
- 市 長 もうしてある。
- 事務局 はい、ちょうどこのタイミングで。
- 市 長 このタイミングで公表してございます。ですから、その中に民主党の事業仕分けに係る部分も民主党の要望として受け付けておりますので、その中で公表させていただいてまいりますので、具体的にこの分こうしたということがちょっと今申し上げられませんが、その中でご覧いただければ

ばと思っております。基本的には、それぞれの会派要望の一つという位置づけの中で検討し、お答えをさせていただくということです。

その他：「(いわゆる)子ども手当のつなぎ法案について」

- 時事通信 濟みません、時事通信です。子ども手当の関係なんですけども、子ども手当法案を延長するつなぎの、6カ月程度のつなぎ法の法案を議員提出する、議員立法で提出する方針が民主党のほうで固まっているようなんですが、そのことについて市長はどのようにお考えでしょうか。
- 市長 現状としてはその辺の状況が、私どものほうも十分まだ把握をしておりませんのでね、それがどういうふうな形の法案になって提出されていくのかということはわかりませんが、基本的にはこれまでどおり子ども手当については国庫負担というのをベースに、法律が通った段階で、やはり基本的には行政としては法律に基づいて事務を行わなければいけない義務がございますので、検討していくことになると思いますけれども、まだ現状としてその辺の動向がつかめておりませんので、今この場で、このときにはこうするああするということは、ちょっと申し上げられません。
- 時事通信 市としてはですね、国庫負担で計上しているわけなんですけども、そのことで国から何か言われたりとか、ほかの他市町村との連携についてはどのように今後していくんでしょうか。
- 市長 そうですね、国から何か言われているということはないと思いますけれども、他の都市との連携については、今までも政令指定都市市長会とか九都県市の政令市長さんたちと共同で、いろんなアクション、あるいは要望書、要望などを行ってきておりますので、そういったつなぎ法案ができるかできないかという、その辺のちょっと見きわめもございますけれども、そういったタイミング、あるいはその後のタイミングになるかもしれませんが、そういった中でまた対応は検討していきたいと思っております。
- 時事通信 でも、今までの要望等は実をなしていないわけですね。
- 市長 そうですね。
- 時事通信 今後具体的に、埼玉県から厚労大臣も選出されているわけですから、そういった厚労大臣へのアプローチとかいうのはどのように。
- 市長 そうですね、その辺は積極的にやっていきたいと思っております。

今年度も大きな課題ですけれども、さらに来年度というか、再来年度がまさに制度がある程度決まってしまうタイミングでもありますので、ある意味では今年度が一つの大きな山場、今年度というか、今年度から来年度にかけてが一つの大きな山場、ポイントだと思っていますので、そういう意味では厚生労働大臣を初めとして、国に対しても積極的に働きかけを行っていきたいと思っています。

その他：「市庁舎の耐震性について」

- 埼玉新聞 埼玉新聞ですけども、午前中にちょっと地震がありまして、震度は何か小さかったようですけども、その割には市庁舎随分揺れたように感じて、記者室の壁もミシミシ音をたててたんですけど、市長、ニュージーランドの件もありますし、耐震性について不安など持たれませんでした。
- 市長 そうですね。この庁舎の耐震化についてもですね、耐震調査並びにそういった修繕の部分については、実施をしていくつもりでありますけども。
- 埼玉新聞 市長室にいらっしゃったんですか。
- 市長 私ですか。
- 埼玉新聞 ええ。
- 市長 いました。横に揺れていましたね。ですけど、体感としてはちょっと余りよく、揺れているのか揺れていないのか、ちょっとわかりにくかった部分がありましたけど、揺れているなという感じはしていました。

その他：「継続審査となった文化芸術創造都市条例について」

- 埼玉新聞 2月議会で、文化振興条例が継続審議になりました。事実上廃案ということだと思っておりますけれども、まだ先のことだと思っておりますけれども、新しい改選された議会で、新たな条例案を提示する考えというのがあるんでしょうか。
- 市長 大変残念でしたけれども、今回文化芸術創造都市条例が継続審議ということになりまして、実質上、今任期中の中では任期が終了するということで、実質的には廃案ということになります。そういう部分では大変残念ですけれども、いずれにしろ継続審査という形に議題的にはなっていますのでね、これは改めて、必要な条例であるというふうに認識をしておりますので、来るべきタイミングにしっかりと出していきたいと思っています。

○ 市長 このドンキホーテの火災を教訓としてですね、私たちとして幾つか実施をしている、あるいはこれから実施をしていくことがございます。

1つは、反省すべき点としてあったものの一つとして、文書管理という問題です。これは、常日ごろから文書の作成及び管理、情報管理については徹底するよう喚起をしてきましたけれども、本件訴訟が提起された後、再度ですね、こういった文書の作成及び管理につきましては、徹底化を図るということをやっております。

2点目は、この火災の事故の後ですね、3回実施しました説明会におきまして、ご遺族の方に不信感、あるいは不快感を与えてしまうというようなことがございました。今後は、誠実に、また的確にこういった説明会においては対応するように改善を、マニュアルなどを作成してですね、進めているところであります。

また、具体的なそれ以外の改善事例としてはですね、119番受信のメモ用紙の下に、通報者の身の危険を感じた場合には早期避難を促す旨を書いておいてですね、いつでも119番のときにはそういったことを通報者の方々にお伝えをしていくということも、今励行しているところでございます。

また、従前も行っていましたけど、人命救助が第一であるということ徹底させております。それら以外にもこの火災の事故を教訓にして、私たちも市民の、いわゆる安全、生命というのが一番という基本的な考え方のもとにですね、消防行政をさらに推進していこうということで、今消防局一丸となって取り組みをしていただいております。

その他：さいたまシティカップの開催について

○ 朝日新聞 済みません、朝日新聞です。先月さいたまシティカップがNACK5スタジオであってですね、ほぼ満員に近い観衆客であったという話されたんですが、例年海外のクラブチームを呼ぶということだったんですが、今回はさいたまダービーマッチになって、この件についてちょっと感想を聞かせてください。

○ 市長 そうですね。今回は、いろんなご意見もありましたけども、さいたま市

を本拠地としておりますJ1リーグのですね、浦和レッズと大宮アルディージャの、いわゆるダービーマッチという形でやらせていただきました。実施するに当たっては、子供たちを招待させていただいたり、あるいは子供たちがたくさん登場する場面をつくらせていただいたり、いろいろ工夫をさせていただきました。

また、オレンジ色のオレンジリボンキャンペーンであるとか、レッドリボンキャンペーンということで児童虐待、あるいはエイズの撲滅のキャンペーンなども並行して行わせていただいたり、単に試合をやる、見るということだけではなく、いろんな試みをさせていただきまして、終わった後のいろんな皆様方の評価では、大変よかったと。

しかも、プレシーズンマッチではありましたが、両チームの選手が非常に真剣に、またベストを尽くして戦っていただきましたので、点数差は3対0でしたけれども、でも実質後半は1人人数が少ないという中で行われましたので、ほとんど五分で、非常にいい試合を見せていただいたということもよかったと思っていますし、私もちょうど試合が終わって出るときに、親子連れの方ですかね、子供さんからありがとうと声を、私が市長だとわかってかけてくれた子供がいました。そういう意味では非常にいい事業だったんじゃないかというふうに思っていますので、今後のあり方の中で、ひとつ大変いい試みであったと思いますので、今後も隔年でやっていくとか、あるいは海外から呼ぶのを何年に1回とかという形にするとか、そういったことも含めて考えていきたいと思っておりますけれども、このアルディージャとレッズのシティカップというのも大変いいなということを改めて思いました。

○ 朝日新聞 そういう意味でいうと、前々からおっしゃっているように2年に1回はこういうさいたまダービーで、2年に1回は海外からクラブチームというような感じがいいのかなという。

○ 市 長 そうですね、それは思いましたね、はい。それで、できれば単に試合をやるだけじゃなくて、やはり市民の皆さんにシティカップというものの意味を、いろいろ感じてもらえる、あるいはそういったものを知っていただけるように、シティカップをやる趣旨というか、意味をね、もうちょっとしっかりと伝えられるように、私たちとしても最大限努力をしていきたい

なと思っています。

- 朝日新聞 ありがとうございます。

その他：「相次ぐ職員の事務処理ミスについて」

- テレビ埼玉 テレビ埼玉です。月曜日にもちょっとレクあったんですけども、市の課税漏れだったりとか、ミスが相次いでいることについてどのようにお考えでしょうか。

- 市 長 そうですね。これはもう市民の皆さんからの信頼を損なうようなことでありますので、この辺については、もうとにかく再発防止を徹底させていきたいと思っております。これまでも、いろんなミスみたいなものがたくさんございましたので、そういったことなども踏まえてとにかく組織としてミスが起りにくい環境をね、より強化をしていくということが必要だと思っておりますので、それぞれの事案、要因などもしっかりと分析というか、把握をして、それらに対する対応はしっかりととっていくということをしていきたいと思っています。よろしいでしょうか。

- 日本経済新聞 この辺でどうでしょうか。

どうもありがとうございました。

- 市 長 ありがとうございました。

- 進 行 それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。
なお、次回の開催は3月24日木曜日、13時30分を予定しておりますので、よろしく申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

午後2時09分閉会

この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、あいまいな語尾などを読み易く整理したものを掲載しています。

なお、会見後訂正・補足等された文言等については「会見後訂正・補足」とし下線を付しています。